

## <鑑賞スペース>

- ◆ 活動スペースを積極的医活用し、目的に応じて相互利用をしやすい配置にする
- ◆ 両ホール間にコラボスペースを配置するなど、コラボスペースと鑑賞スペースの関係性を築きやすい構成を検討する

### ■活動をつなぐ2階コラボスペース

- ・2階ホワイエを活動スペースと繋ぎ、相互に利用しやすくする

### ■楽屋の確保

- ・楽屋は大ホールと小ホールで別個に設け、かつ一般客から隔離されている必要がある
- ・現在は会議室を楽屋として利用しており、楽屋が足りていない状況である
- ・活動室を楽屋利用する場合、2階ホワイエと活動スペースを直接行き来できる必要がある

### ■市民活動のための小ホール

- ・小ホールは主に市民活動に利用される
- ・文化会館の舞台間口では小さく対応できない活動があるため広くとる必要がある
- ・活動の種類に応じて専門的な設備を要する

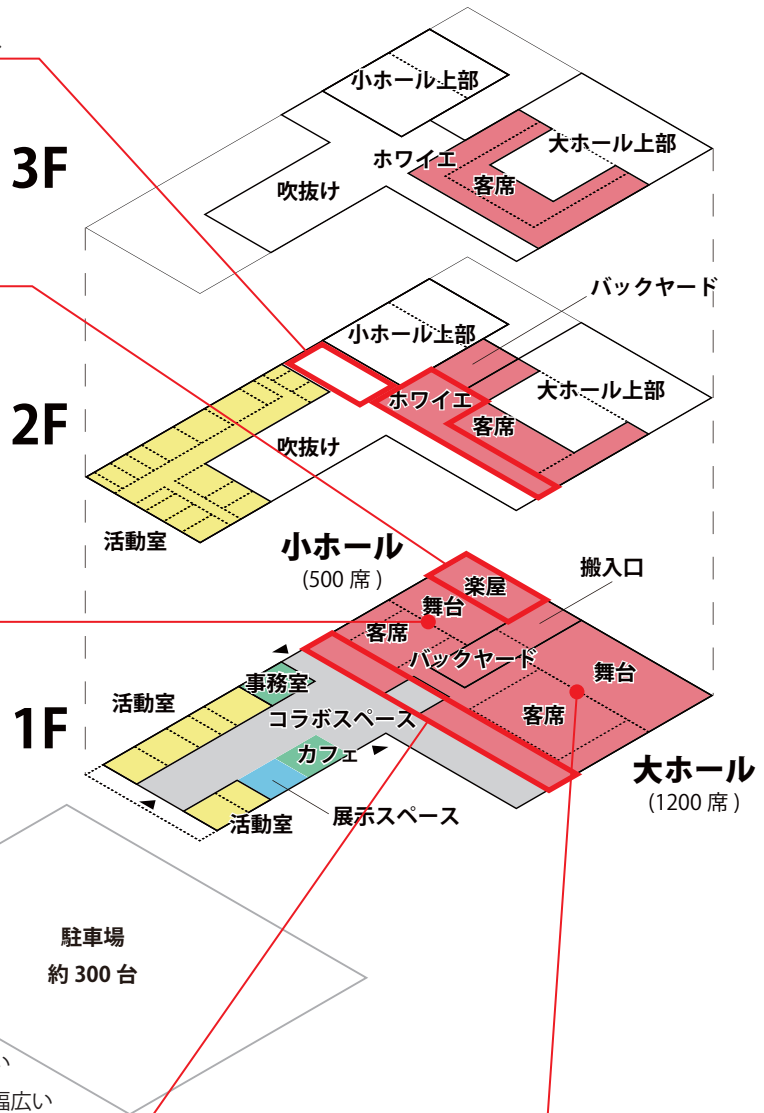
使い分ける

### ■平土間の大会議室

- ・市民会館小ホールのような、ステージがあり椅子が並べられる平土間の大会議室が使いやすい
- ・平土間にすると、発表から会議、イベントまで幅広い利用ができる
- ・多目的利用は活動スペースの広い部屋が使える

### ■ホワイエのロビー的利用

- ・ホールの利用がないときはロビースペースとして多目的に貸し出す（イメージ①）



### ■フレキシブルな大ホール

- ・大ホールの客席を複層にし階ごとに貸し出すことで、500~700席程度の規模の活動に対応する
- ・オーケストラピットを電動にすることで、100席程度の可動席を設けたり、舞台の広さを調節したりできる